

日本出版クラブ「洋書の森」主催  
翻訳者のためのウィークエンド スキルアップ講座 第37回

宮脇教室7限目

# 原文のウラを読む

—— デ・ラ・メアの作品から

講師 宮脇孝雄 氏

小説が好きでないと小説は翻訳できませんが、ただ好きだけではまだ足りないと思います。高いところから小説を眺めて、面白い、つまらない、と感想をいっているだけでは、ただの読者です。小説の中に入り込んで、とことん付き合うこと、それが翻訳における小説好きの定義ではないでしょうか。いいかえれば、あなたには小説を信じ切れる覚悟があるか、ということです。

今回の課題は意味不明なことで有名な作品ですが（解決のないアレゴリー）、怯むことなく、どっぷり中に浸かって訳してみてください。正解はインターネットや辞書の中にあるのではなく、あなた自身の心の中にあります。

宮脇孝雄

## ◆ 参加要項 ◆

### 日 時

2020年2月15日（土）15：00～17：00（受付開始14：30）

### 講 師

宮 脇 孝 雄 氏（翻訳家／随筆家）

### 会 場

出版クラブホール（出版クラブビル3F）  
（千代田区神田神保町1-32 神保町駅A5出口より徒歩2分）  
<https://shuppan-club.jp>

### 参加費

講座 3,200円（資料代を含む）

### 定 員

80名（会費振込み確認順、定員になり次第締切）

★講座終了後、17時30分より近くの別会場にて講師を囲んでの交流会を行います。  
参加ご希望の方は併せてお申込下さい。（会費別途／5,000円・税込み、定員30名）

### お申込み・お問合せ

下記「洋書の森」宛に ①参加される方のお名前 ②連絡先電話番号 ③メールアドレス ④2/15（講座のみ or 講座・交流会とも）参加希望、とメールして下さい。お申し込みいただいた方には折り返し、会費振込み先のご案内をいたします。

会費振込み確認を以て正式に申込み受けとなり、こちらから課題文等、詳細をお送りいたします。会費振込み後、数日経っても返信のない場合はお手数ですが、お電話等でお問い合わせ下さい。（金曜夕方～日曜・祝日にお申込みの方には返信が休日明けとなりますのでご了承下さい。）

なお、会費お振込み後、キャンセルされた場合でも返金はできかねますので、何卒ご注意・ご了承の上、お手続き下さい。

また、当日の飛び入り参加はできません。必ず事前にお申込み・お振込み下さい。

一般財団法人 日本出版クラブ内 「洋書の森」事務局  
E-Mail : [yousho@shuppan-club.jp](mailto:yousho@shuppan-club.jp) TEL 03(5577)1771

## ◆講師略歴◆

### 宮 脇 孝 雄（みやわき たかお）

1954年2月14日、高知県土佐市生まれ。高知県は東京都より面積が広いが、人口は杉並区より少なく、しかもその八割が高知市に集中しているため、県庁所在地を少し離れると一キロ四方自分以外誰もいないという場所がよくあり、少年時代から人間ではなく昆虫や鳥や魚と戯れることを好んだ。実家の右隣はお菓子屋、左隣は本屋で、字が読めるようになるとお菓子を食べながら本を読む生活を満喫するようになる。実家は映画館経営で、本を読んでいるときは映画館に入り浸る小学生だった。大学時代に参加した推理小説サークル（ワセダミステリクラブ、略称WMC）の先輩、大井良純氏（翻訳家、故人）に小鷹信光氏（作家、翻訳家、故人）と菅野園彦氏（早川書房編集者のちに編集長、故人）を紹介していただいて、この道に入る。もともとはSFファンだったが、WMCで折原一氏（のちの作家）から古本屋巡りの手ほどきを受けたり、入れ違いに卒業したM氏（のちの作家、北村薫氏）が部屋に残していったエラリー・クイーンや鮎川哲也を読むうちにミステリに目覚める。大学二年のとき「ミステリ マガジン」に短篇を訳したときにもらったのが最初の原稿料、その四年後に単行本（早川ポケミス、ジョイス・ポーター著『殺人つきバック旅行』）を出してもらったときに振り込まれたのが最初の印税。以後、四十年ほど売文生活を送る。

### 主な著書

『書齋の旅人ーイギリス・ミステリ歴史散歩』（1991年）早川書房、『書齋の料理人ー翻訳家はキッチンで…』（1991年）世界文化社、『煮たり焼いたり炒めたり』早川文庫（1998年）、『翻訳家の書齋ー〈想像力〉が働く仕事場』（1997年）研究社、『ペーパーバック探訪ー英米文化のエッセンス』（1998年）アルク、『翻訳の基本ー原文どおりに日本語に』（2000年）研究社、『続・翻訳の基本』（2010年）研究社、『英和翻訳基本辞典』（2013年）研究社、『翻訳地獄へようこそ』（2018年）アルク、『洋書天国へようこそ』（2019年）アルク。

### 主な訳書

トーマス・トンプソン 『血と金 ある富豪の愛と執念』 小鷹信光共訳、パシフィカ、1977年、ジョイス・ポーター 『殺人つきバック旅行』 早川書房、1978年、リチャード・スターク 『悪党パーカー 殺戮の月』 早川書房、1979年、コリン・ウィルコックス、ビル・プロンジーニ 『依頼人は三度襲われる』 文藝春秋〈文春文庫〉、1979年、リチャード・エイヴァリー 『タンタロスの輪 コンコラッド消耗部隊』 東京創元社〈創元推理文庫〉、1980年、ウィルコックス 『容疑者は雨に消える』 文藝春秋〈文春文庫〉、1980年、ウィルコックス 『女友達

は影に怯える』 文藝春秋〈文春文庫〉、1980年、テランス・ディックス 『盗まれた名画をさがせ』 ティビーエス・ブリタニカ(ベーカー街少年探偵団)、1981年、M.S.バリー 『サイモンと魔女』 ティビーエス・ブリタニカ、1981年、グレゴリー・ベンフォード、ゴードン・エクランド 『もし星が神ならば』 早川書房のち文庫、1981年、ウィリアム・ディール 『シャーキーズ・マシーン』 角川書店、1982年、テリー・カー 『聖堂都市サーク』 早川書房〈ハヤカワ文庫〉、1984年、ジェイムズ・マクルーア 『小さな警官』 早川書房、1984年、アーサー・ライアンズ 『ハード・トレード』 河出書房新社 のち文庫、1985年、W・ケリー、E・W・ウォーレス 『目撃者 刑事ジョン・ブック』 角川書店〈角川文庫〉、1985年、クライヴ・バーカー 『ミッドナイト・ミートトレイン』 集英社〈集英社文庫〉、1987年、ジョン・コーンウェル 『地に戻る者ーイギリス田園殺人事件』 早川書房、1988年、フリーマントル 『名門ホテル乗っ取り工作』 新潮社〈新潮文庫〉、1989年、パトリック・マグラア 『血のささやき、水のつぶやき』 河出書房新社、1989年、ジェーン・デンティンガー 『そして殺人の幕が上がる』 東京創元社〈創元推理文庫〉、1991年、ヨゼフ・シュクヴォレツキー 『ノックス師に捧げる10の犯罪』 宮脇裕子共訳、早川書房、1991年、ディーン・R・クーンツ 『ストレンジャーズ』 文藝春秋〈文春文庫〉、1991年、デンティンガー 『誰も批評家を愛せない』 東京創元社〈創元推理文庫〉、1992年、パトリシア・ハイスミス 『女嫌いのための小品集』 河出書房新社〈河出文庫〉、1993年、イアン・マキューアン 『イノセント』 早川書房 のち文庫、1993年、ジェフ・ニコルソン 『食物連鎖』 早川書房、1995年、ジョン・ダニング 『死の蔵書』 早川書房〈ハヤカワ文庫〉、1996年、C・W・ニコル 『スケッチの音』 エム・ピー・シー、1999年、メアリー・M. モーリス 『逃避行』 集英社〈集英社文庫〉、1999年、ウィリアム・J. パーマー 『文豪ディケンズと倒錯の館』 新潮社〈新潮文庫〉、2001年、ドロシー・L・セイヤーズ 『顔のない男ーピーター卿の事件簿〈2〉』 東京創元社〈創元推理文庫〉、2001年、グラディス・ミッチェル 『ソルトマーシュの殺人』 国書刊行会、2002年、ハイスミス 『回転する世界の静止点ー初期短篇集1938-1949』 河出書房新社、2005年、ハイスミス 『目には見えない何かー中後期短篇集1952-1982』 河出書房新社、2005年、マシュー・ニール 『英国紳士、エデンへ行く』 早川書房、2007年、『ジーン・ウルフの記念日の本』 国書刊行会、2015年、『犯罪学大図鑑』 遠藤裕子、大野晶子共訳、三省堂、2019年。